

銀の皿

「紫陽花」



調べた所によると、紫陽花は昔、人気のない花だったそうです。花言葉は「冷淡」「移り気」。そして万葉集の中で紫陽花に関する詩はわずか2首。どうやら、紫陽花は日本人の中で不道德の象徴として扱われていたようです。しかしそんな紫陽花ですが、ヨーロッパの人々の目に留まり、それぞれの国へ持ち帰られ、品種改良されていったそうです。その結果、様々な紫陽花が生まれ、ヨーロッパの間で観賞用の花として好評を博していったそうです。それが逆輸入という形で戦後から日本に入ってきて、徐々に人気に火が着き、そして今では多くの日本人にも親しまれるような花となっていきました。今、新たに言われている紫陽花の花言葉は「平和」「団らん」「団結」だそうです。

紫陽花はこの間（おそらく奈良時代から）何か努力をしたのでしょうか？エステに行って、ジムに通い食事制限の末にその人気を獲得したのでしょうか？いいえ、ただ咲いていただけです。もっと言うならば咲き続けていただけです。そしてその自然の持つ本来の美しさに皆が気付いたというのが正に自然でしょう。

人の持つ尊厳や美しさに初めから気付いて、「あなたは素晴らしい！」と声をかけ続けて下さる方がいます。私達を創られた神様です。私達はその声を聴いた時、私達も自分の価値を再発見することが出来ます。「そうだ！私達は素晴らしい！」そして今度は自分でその言葉を告白する時、完全に自分の言葉になります。「そう私は主に在って素晴らしい。」もし私達が持つべき強さがあるとするならば、その声を聴き分け続ける強さなのだと思います。私達が立つ所は御言葉だけです。共に主を見上げ続けてまいりましょう。